

平成27年度第3回 松戸市公共施設再編整備推進審議会

日時：平成28年2月23日（火）9：00～

場所：松戸市役所新館5階市民サロン

会議次第

1. 開会

2. 議事

(1) 前回の議事の確認

(2) 公共施設再編とコミュニティプランニングについて

(3) 東松戸まちづくり用地の利活用について

(4) 次年度の審議会の進め方について

3. 閉会

平成 27 年度第 2 回 松戸市公共施設再編整備推進審議会 議事要旨

日 時：平成 27 年 12 月 15 日（火）9：00～10：30

場 所：松戸市役所新館 5 階 市民サロン

出席者：柳澤委員（会長）、藤村委員（副会長）、小川委員、池澤委員

欠席者：原田委員

○ 議事

- (1) 前回の議事の確認
- (2) (仮称) 公共施設再編基本計画の概要について
- (3) 公共施設再編とコミュニティプランニングについて
- (4) まちづくり用地（東松戸 65 街区）の利活用について

(2) (仮称) 公共施設再編基本計画の概要について

- 事務局より、基本計画のフレームプランを提示し、小学校を拠点としてその他施設を複合化していく他市の事例を紹介、総合計画、都市マスタープラン、立地適正化計画等の整合性を図る必要性を説明
- 池澤委員より、総合管理計画等の体系に関する補足説明

<主な意見>

- 二層のエリアマネジメント：コミュニティ形成と広域の連携が必要。地域ごとに施設機能をフルスペックで持つのではなく、エリアあるいは自治体をまたいで連携
- 他市での検討事例だが、中学校は規模を維持する（部活動の多様性維持）、小学校は数を維持することが重要なので、将来的に、中学校は重量建築で拠点化し、小学校は低層木造で計画しているケースもある。
- 大は小を兼ねるという時代ではない。利用用途の変化の想定、暫定利用を考慮するなど、1か0かという議論ではなく、メタボリズム的な考え方もあるかもしれない。
- 小学校や中学校を拠点にとっても、交通の利便性など地域によっては適切ではないケースがある。対象地域の中心がどこにあるのかを知ることが重要ではないか。
- 交通の便がよくないところもあるので、そのあたりも考慮すべき

(3) 公共施設再編とコミュニティプランニングについて

- 事務局より、松戸市の地域の成立過程と小学校区、中学校区別の今後 6 年の児童・生徒数並びに空き教室数の見とおしについて説明

<主な意見>

- 他市の事例では、人口 72,000 人のまちを 12,000 人ずつの地域に 6 分割し、児童数が 40 年後におよそ半減するという推計を基に、公共施設再編プロジェクトを人口、面積の両面から考えている。人口動態から全体像を地図に落とすことをしている。
- どういうまちにしたいか、地域ごとのランドデザインをもつことが重要。どの地区でも同じ仕様でなければならないという話を聞くが、地域性を加味して、それぞれオリジナルな施設像をつくっていけばいい。

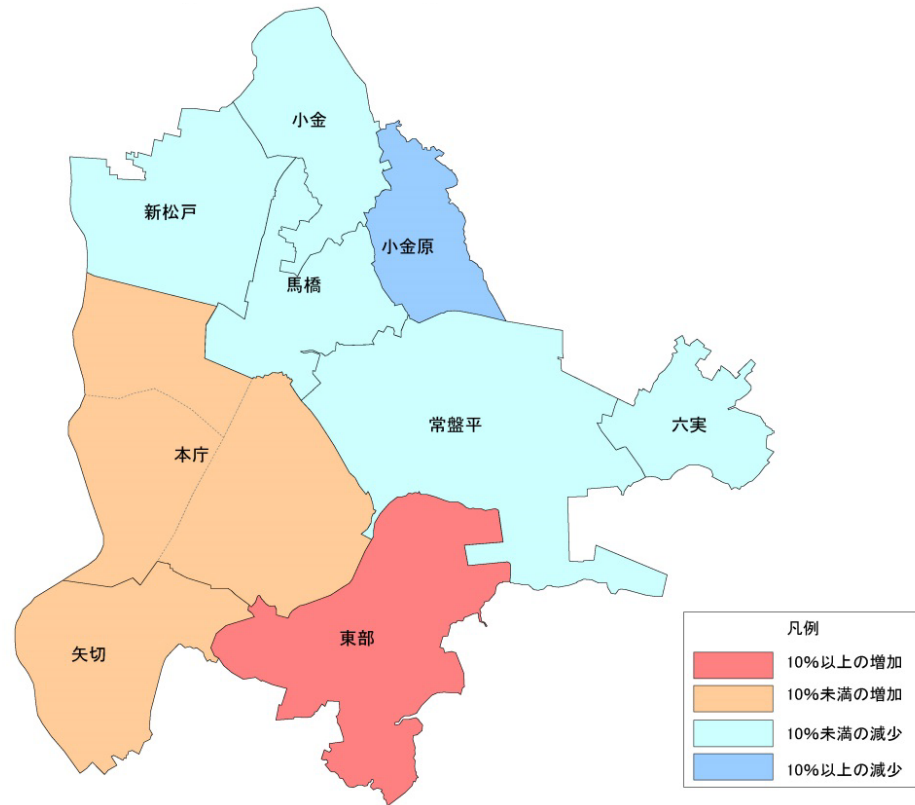
- 一方で、都心の例だが、学区選択制にしたのを元に戻したところもある。人がたくさん集まるところとそうではないところのコントラストがでてくるため、地域間の偏りを生まないための施策が求められるケースもある。
- 今後 30 年程度の学級数の推計を出して欲しい。先行してモデル地区、施設像を考えて、庁内の合意形成を図っていく必要があると思う。全体像を決めてからやるのではなく、プロジェクト型で先行して事業を行い、合意形成していければよい。
- 事業の推進体制が重要。市民だけでなく、庁内でも具体的なイメージを共有することが重要。この審議会の場に関係課の方も同席いただくべきではないか。
- ニュータウンであればトップダウンでよいかもしれないが、既成市街地においては、個別のアクションプランから全体計画にフィードバックしていく必要がある。
- 個別計画から全体計画、全体計画から個別計画という双方向のベクトル、意識が重要。
- 利害調整するだけでは八方美人的な計画になってしまうので、コーディネーターからプロデューサーへの意識変換が必要。

(4) まちづくり用地（東松戸 65 街区）の利活用について

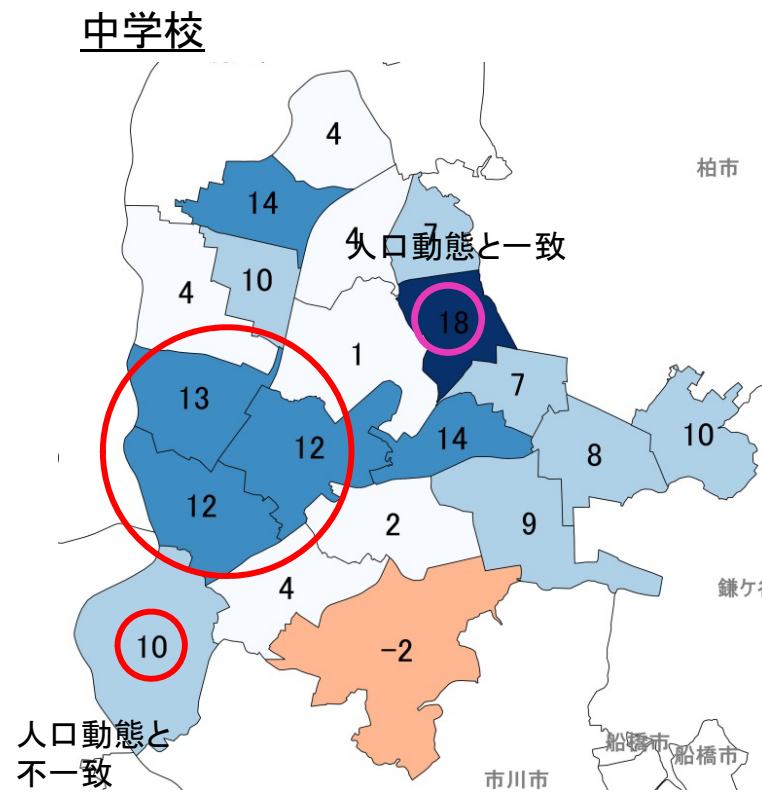
- 事務局より、当該地の利活用に関し、市民参画の手法を取り入れ官学連携でプロジェクトを進めていきたい旨の説明
- 藤村委員より、市民参画手法を取り入れたプロジェクトの進め方について補足説明
- 普段呼びかけても来ない人たちの視点が必要。時間のある人の意見ではなく、施設を利用するひとの意見や子育て世代も集める仕組みが重要だ。
- 多様な属性を一堂には難しいので、世代、属性を分けて調査してはどうか。
- まちに居場所、ふらっと集まれる場所が少なくなっている。機能分化を進めるのではなく、ゆるやかな場が必要なのでは。フレキシブルに変化していく対応可能な空間のあり方のモデルにしたい。

(以上)

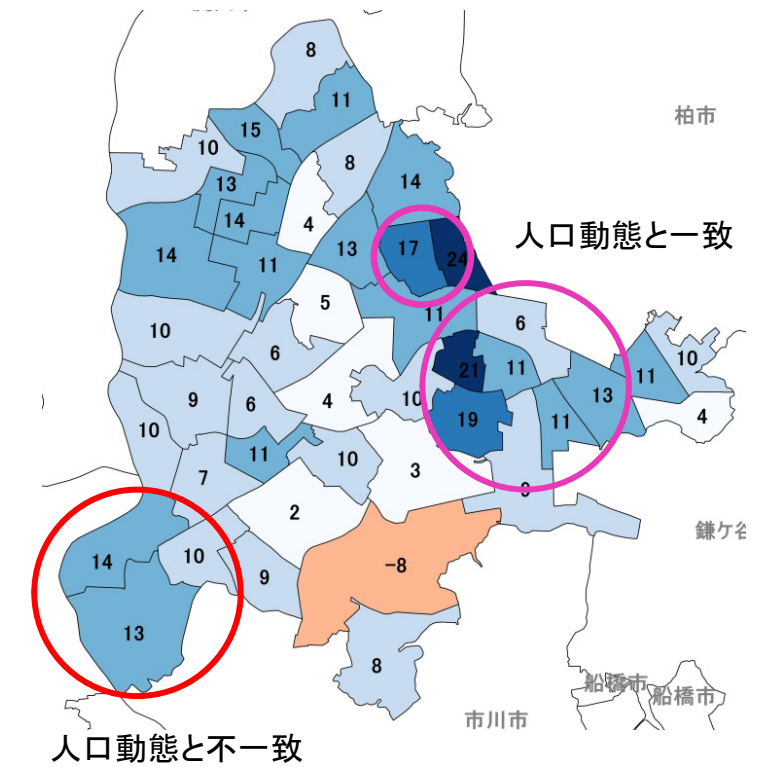
H19→H32の人口動態



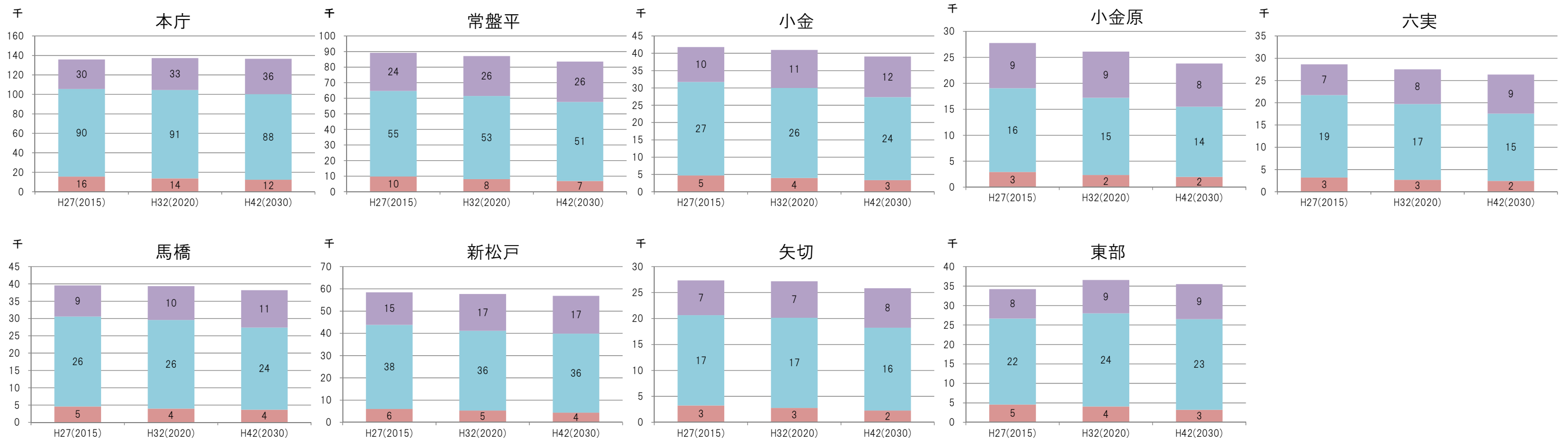
H32時点の空き教室数



小学校

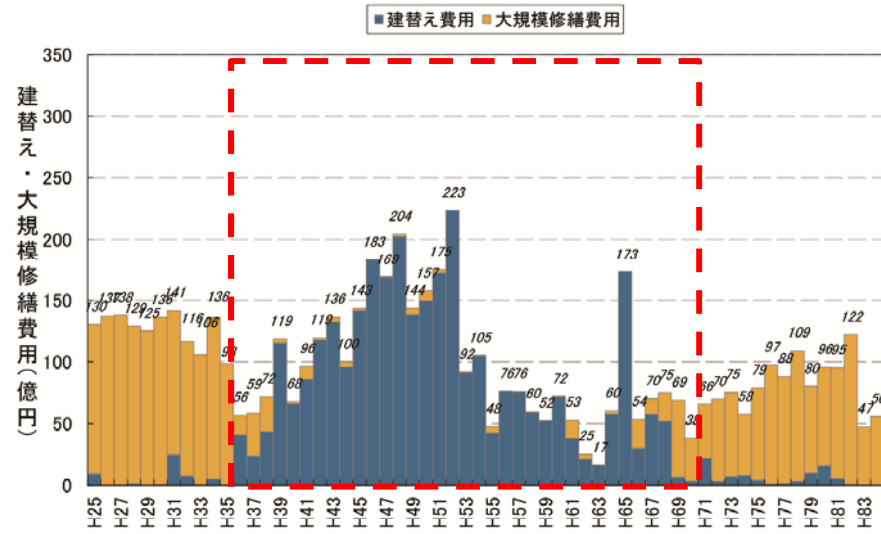


H42時点の人口動態について(参考)

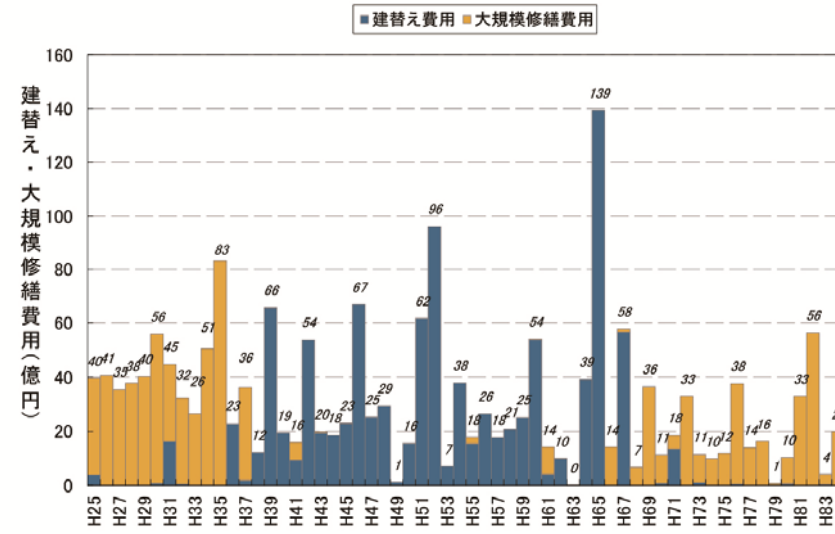


更新費用について

松戸市全体 H35-H70で大量更新時代



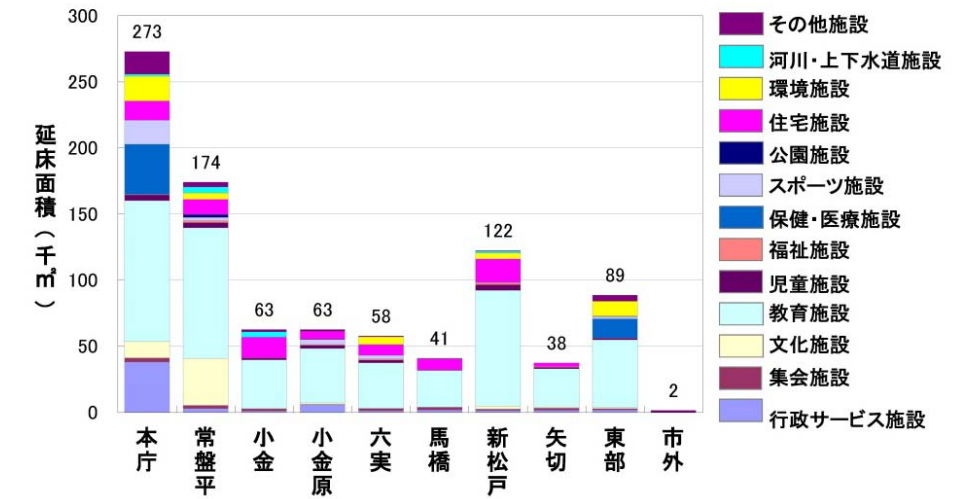
広域施設※1のみ



地域別の施設配置状況

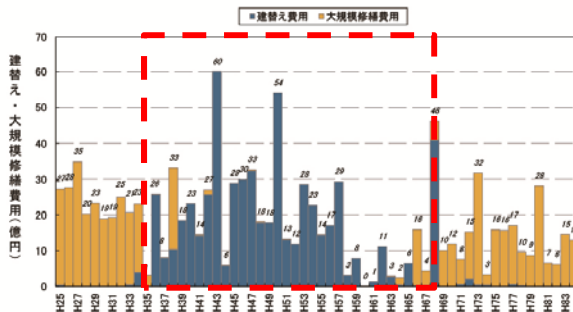
施設面積

図 2-6 地域別の公共施設配置状況 (延床面積ベース)

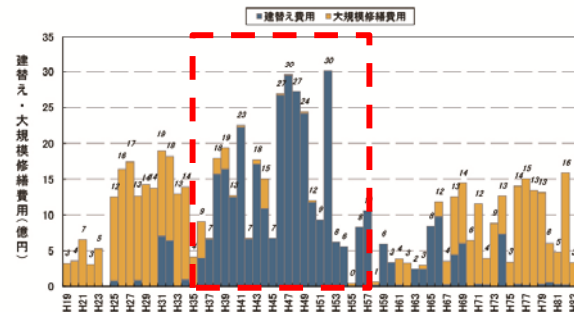


地域施設※2の地域別更新費用

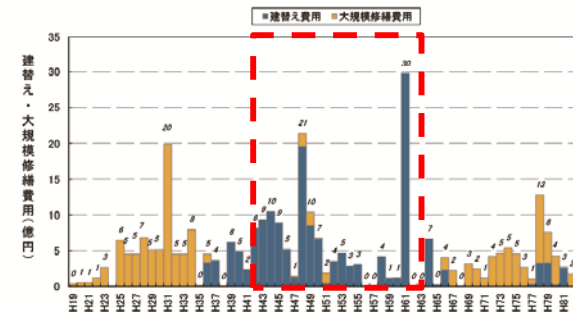
本庁 恒常的



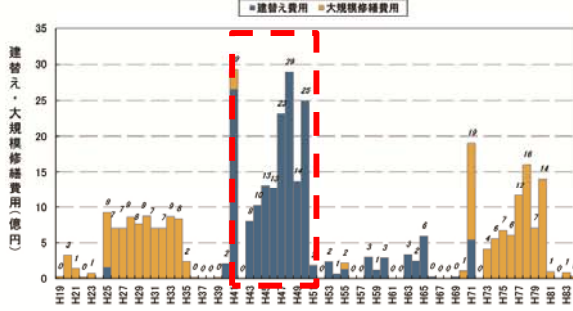
常盤平 H37-H57



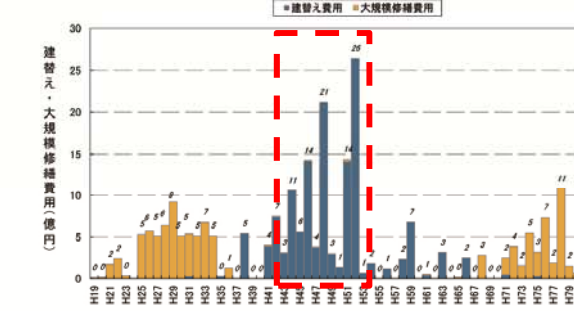
小金 H44-H61



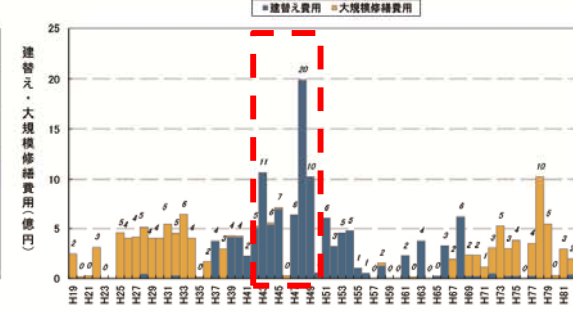
小金原 H41-H49



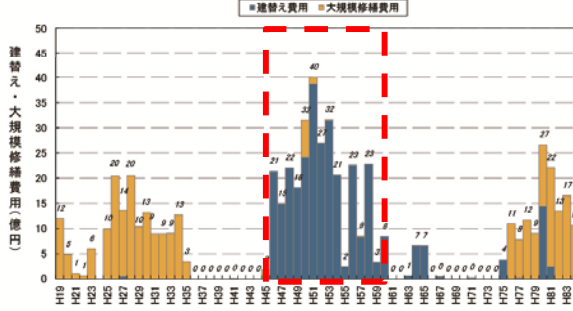
六実 H44-H51



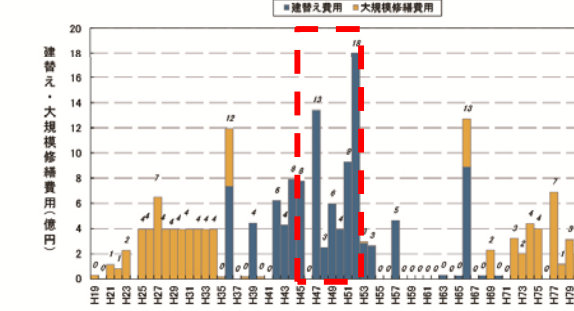
馬橋 H42-H49



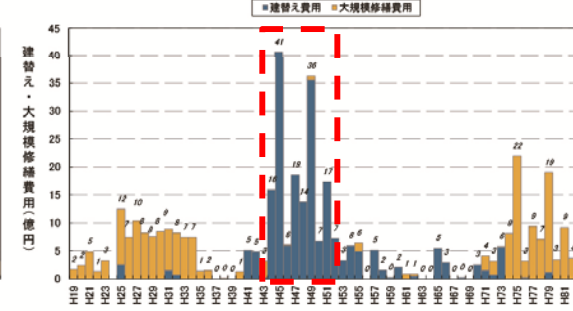
新松戸 H46-H58



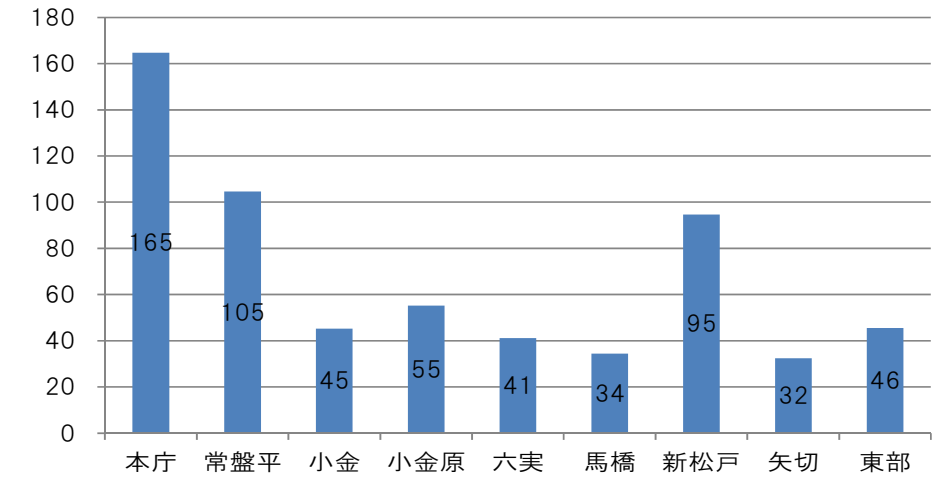
矢切 H44-H52



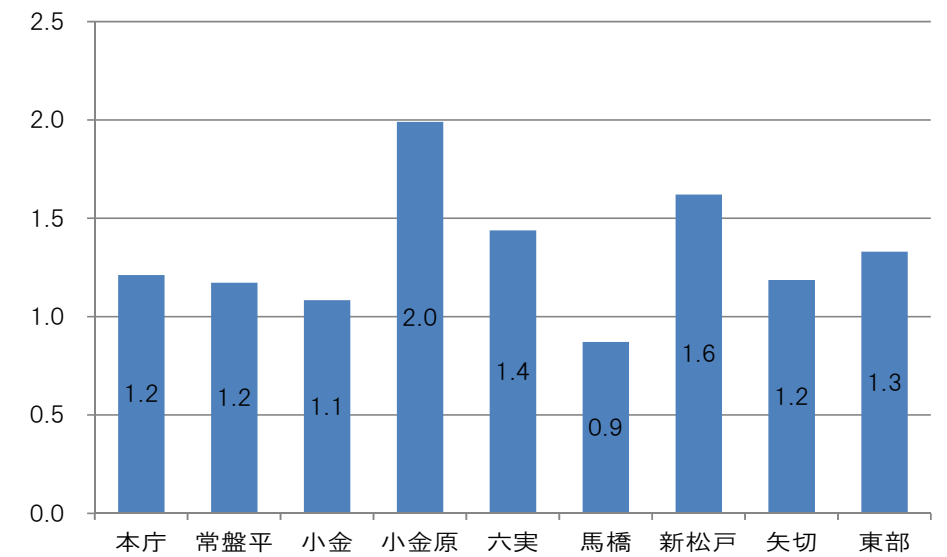
東部 H43-H50



施設面積(地域施設のみ)



1人あたり面積(地域施設のみ)



※1,2) 施設の類型化は、白書による。広域施設:ホール、博物館等、高齢者施設、高校、体育館、市営住宅に加え、集会機能を持つ特定施設。地域施設:支所、市民センター、図書館、小・中学校、児童クラブ、保育所

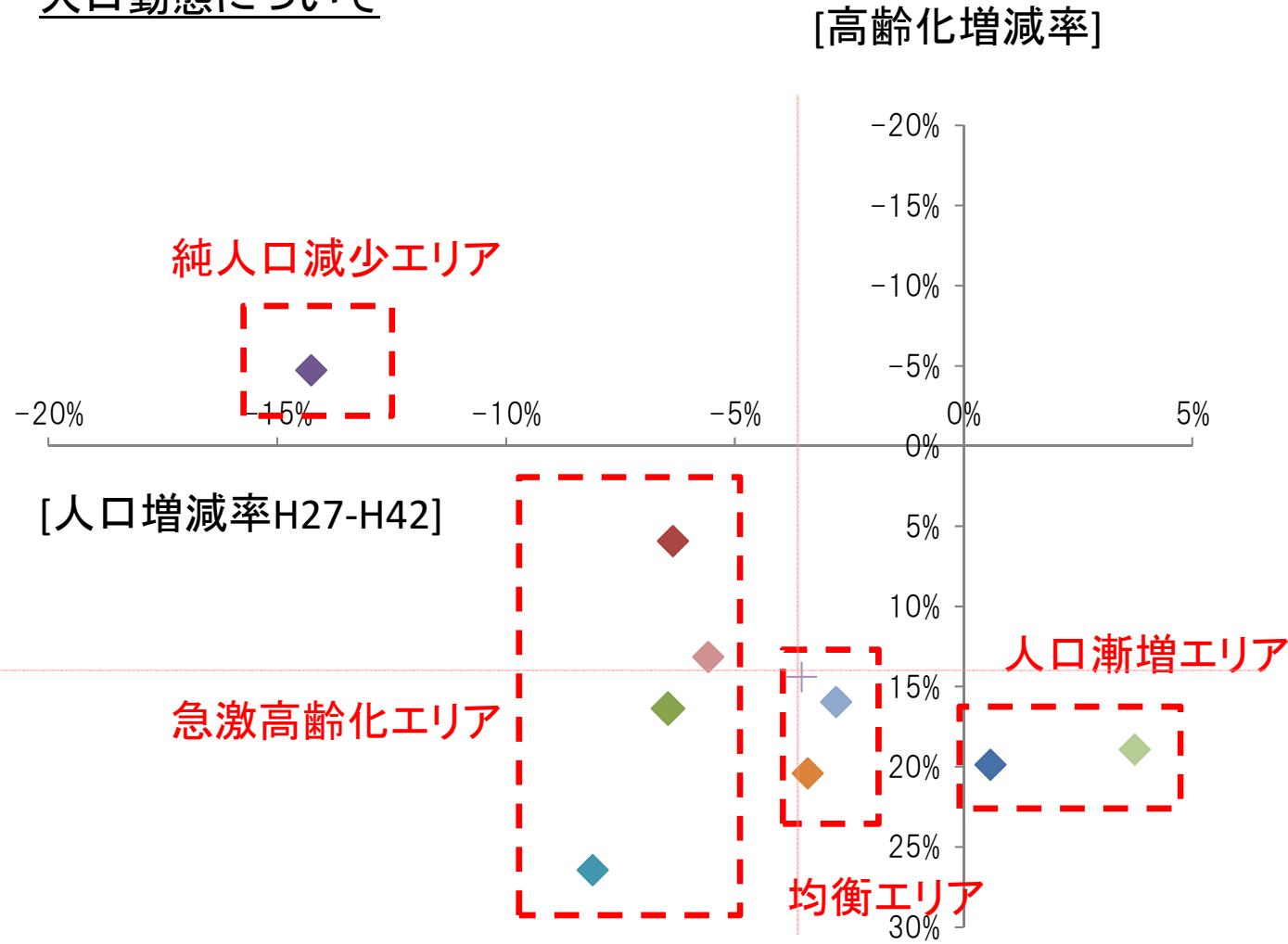
(2) 公共施設再編とコミュニティプランニングについて

データ一覧

			本庁	常盤平	小金	小金原	六実	馬橋	新松戸	矢切	東部	松戸市全体	
人口	総数	H27(2015)	人	135,890	89,202	41,795	27,755	28,641	39,550	58,441	27,351	34,226	482,851
		H32(2020)	人	137,206	87,112	40,987	26,108	27,494	39,355	57,700	27,173	36,553	479,688
		H42(2030)	人	136,689	83,543	39,097	23,800	26,320	38,204	56,816	25,827	35,509	465,805
		増減(H27-H32)	人	1,316	-2,090	-808	-1,647	-1,147	-195	-741	-178	2,327	-3,163
		増減(H27-H42)	人	799	-5,659	-2,698	-3,955	-2,321	-1,346	-1,625	-1,524	1,283	-17,046
		増減率(H27-H32)	%	1.0%	-2.3%	-1.9%	-5.9%	-4.0%	-0.5%	-1.3%	-0.7%	6.8%	-0.7%
		増減率(H27-H42)	%	0.6%	-6.3%	-6.5%	-14.2%	-8.1%	-3.4%	-2.8%	-5.6%	3.7%	-3.5%
	0~14	H27(2015)	人	15,533	9,703	4,679	2,922	3,187	4,602	5,994	3,235	4,577	54,432
		H32(2020)	人	13,706	8,064	3,993	2,346	2,685	3,976	5,327	2,791	4,081	46,969
		H42(2030)	人	12,395	6,887	3,351	1,982	2,447	3,652	4,369	2,287	3,229	40,599
		増減(H27-H32)	人	-1,827	-1,639	-686	-576	-502	-626	-667	-444	-496	-7,463
		増減(H27-H42)	人	-3,138	-2,816	-1,328	-940	-740	-950	-1,625	-948	-1,348	-13,833
		増減率(H27-H32)	%	-11.8%	-16.9%	-14.7%	-19.7%	-15.8%	-13.6%	-11.1%	-13.7%	-10.8%	-13.7%
		増減率(H27-H42)	%	-20.2%	-29.0%	-28.4%	-32.2%	-23.2%	-20.6%	-27.1%	-29.3%	-29.5%	-25.4%
	15~64	H27(2015)	人	89,983	55,059	27,031	16,132	18,533	25,964	37,839	17,410	22,088	310,039
		H32(2020)	人	90,832	53,378	26,009	14,885	17,042	25,604	35,836	17,352	23,934	304,872
		H42(2030)	人	87,882	50,767	24,010	13,527	15,121	23,733	35,505	15,951	23,288	289,784
		増減(H27-H32)	人	849	-1,681	-1,022	-1,247	-1,491	-360	-2,003	-58	1,846	-5,167
		増減(H27-H42)	人	-2,101	-4,292	-3,021	-2,605	-3,412	-2,231	-2,334	-1,459	1,200	-20,255
		増減率(H27-H32)	%	0.9%	-3.1%	-3.8%	-7.7%	-8.0%	-1.4%	-5.3%	-0.3%	8.4%	-1.7%
		増減率(H27-H42)	%	-2.3%	-7.8%	-11.2%	-16.1%	-18.4%	-8.6%	-6.2%	-8.4%	5.4%	-6.5%
65~	H27(2015)	人	30,374	24,440	10,085	8,701	6,921	8,984	14,608	6,706	7,561	118,380	
	H32(2020)	人	32,668	25,670	10,985	8,877	7,767	9,775	16,537	7,030	8,538	127,847	
	H42(2030)	人	36,412	25,889	11,736	8,291	8,752	10,819	16,942	7,589	8,992	135,422	
	増減(H27-H32)	人	2,294	1,230	900	176	846	791	1,929	324	977	9,467	
	増減(H27-H42)	人	6,038	1,449	1,651	-410	1,831	1,835	2,334	883	1,431	17,042	
	増減率(H27-H32)	%	7.6%	5.0%	8.9%	2.0%	12.2%	8.8%	13.2%	4.8%	12.9%	8.0%	
	増減率(H27-H42)	%	19.9%	5.9%	16.4%	-4.7%	26.5%	20.4%	16.0%	13.2%	18.9%	14.4%	
施設	施設数	-	112	85	31	32	23	31	43	23	38	418.0	
	総面積(地域施設のみ)	千㎡	164.7	104.6	45.3	55.2	41.2	34.5	94.7	32.4	45.5	618.0	
	1施設当たり	㎡	680.2	812.7	684.4	579.3	558.5	899.4	454.3	708.9	834.9	676.3	
	H27一人当たり	㎡/人	1.21	1.17	1.08	1.99	1.44	0.87	1.62	1.19	1.33	1.28	
	H32一人当たり	㎡/人	1.20	1.20	1.11	2.12	1.50	0.88	1.64	1.19	1.25	1.29	
	H42一人当たり	㎡/人	1.20	1.25	1.16	2.32	1.56	0.90	1.67	1.26	1.28	1.33	
	増減率(H27-H32)	%	-1.0%	2.4%	2.0%	6.3%	4.2%	0.5%	1.3%	0.7%	-6.4%	0.7%	
	増減率(H27-H42)	%	-0.6%	6.8%	6.9%	16.6%	8.8%	3.5%	2.9%	5.9%	-3.6%	3.7%	
	H32小学校空き教室数	-	89	98	27	55	38	29	70	32	3	441	
	H32小学校教室数	-	312	218	84	100	101	82	175	77	88	1237	
	H32小学校空き教室率	%	28.5%	45.0%	32.1%	55.0%	37.6%	35.4%	40.0%	41.6%	3.4%	35.7%	
	H32中学校空き教室数	-	41	38	8	25	10	1	28	10	0	161	
	H32中学校教室数	-	121	98	38	45	27	23	69	27	48	496	
	H32中学校空き教室率	&	33.9%	38.8%	21.1%	55.6%	37.0%	4.3%	40.6%	37.0%	0.0%	32.5%	
コメント	人口	-	人口はほぼ横ばい 低い高齢化率	比較的高い高齢化率	比較的高い高齢化率	急激な人口減少 最も高い高齢化率	急激な高齢化 高い人口減少率				人口はほぼ横ばい 低い高齢化率		
	施設	-	中学校の空き教室数が多い	小学校の空き教室数が多い		急激な人口減少によるH42の1人当たり施設面積の急増 空き教室率が小学校中学校ともに高い		一人当たり施設面積は少ないが、施設は集約的	施設が分散的	一人当たり施設面積は少ないが、施設は集約的	高い一人当たり施設面積(病院、市立高校及びクリーンセンターが立地するため) 空き教室はほぼ0もしくは超過		

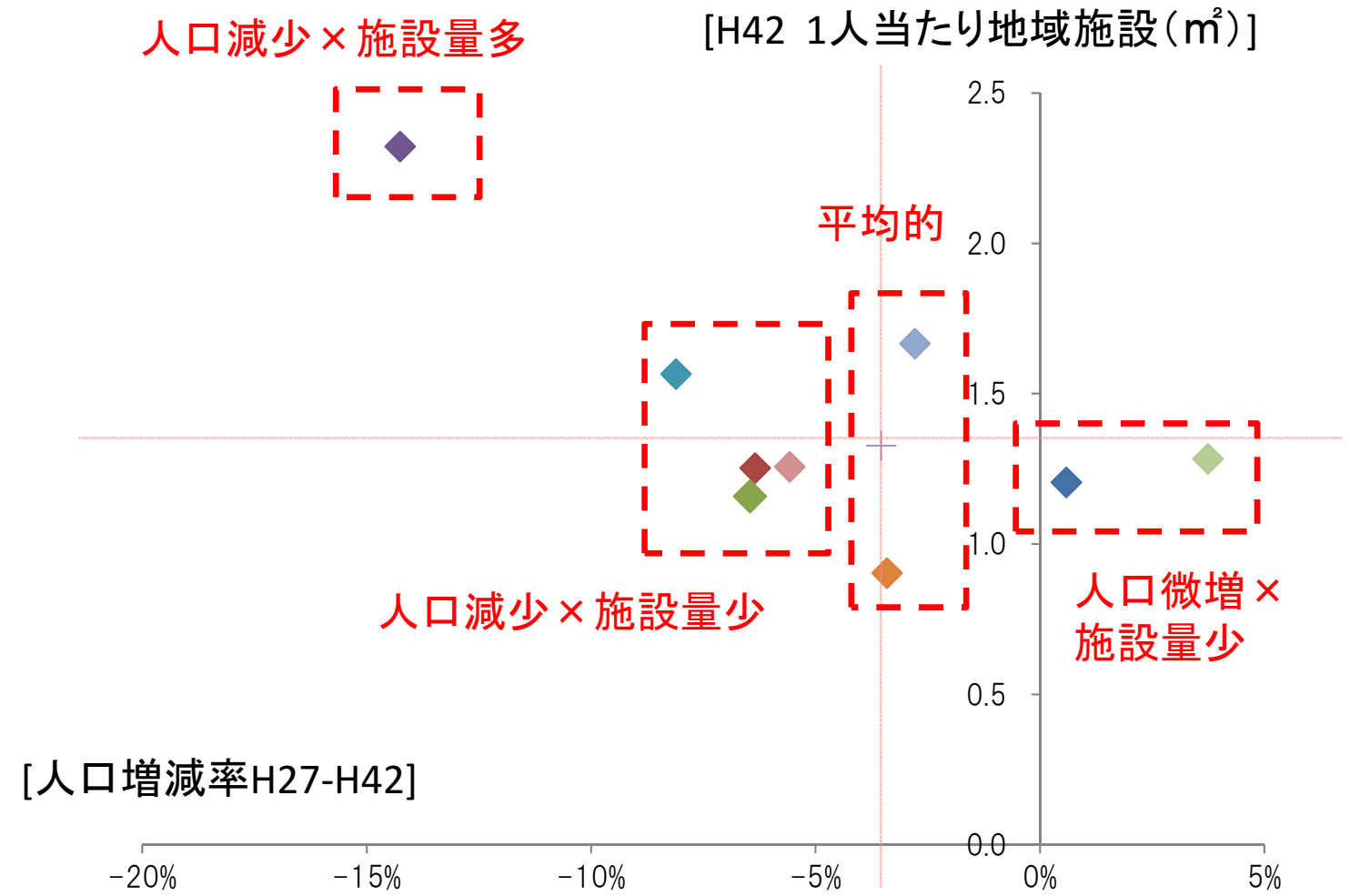
まとめ

人口動態について



◆本庁 ◆常盤平 ◆小金 ◆小金原 ◆六実 ◆馬橋 ◆新松戸 ◆矢切 ◆東部 +松戸市全体

人口増減と1人当たり地域施設について



◆本庁 ◆常盤平 ◆小金 ◆小金原 ◆六実 ◆馬橋 ◆新松戸 ◆矢切 ◆東部 +松戸市全体

		人口増減と1人当たり地域施設について			
		人口減少×施設量多	人口減少×施設量少	平均的	人口微増×施設量少
人口動態について	人口減少エリア	小金原			
	急激高齢化エリア		小金・常盤平・矢切・六実		
	均衡エリア			新松戸・馬橋	
	人口微増エリア				東部・本庁

前回の審議会からの変更点

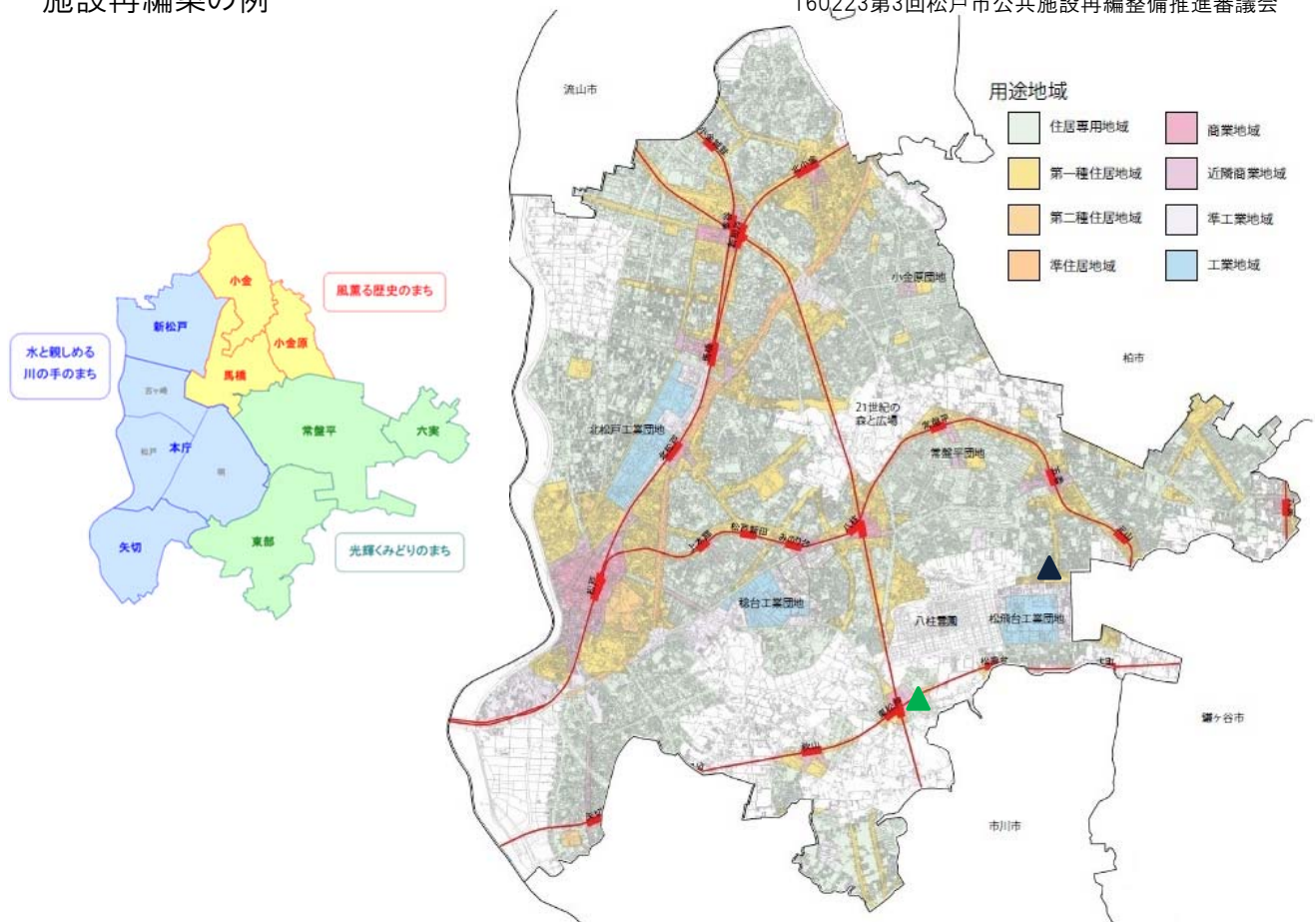
①実行計画(=施設再編案)の提示

②前提条件の修正

:公設公営施設→民設も視野に入れた公営施設

③官学連携事業の業務範囲

施設再編案の例



東松戸駅周辺

160223第3回松戸市公共施設再編整備推進審議会



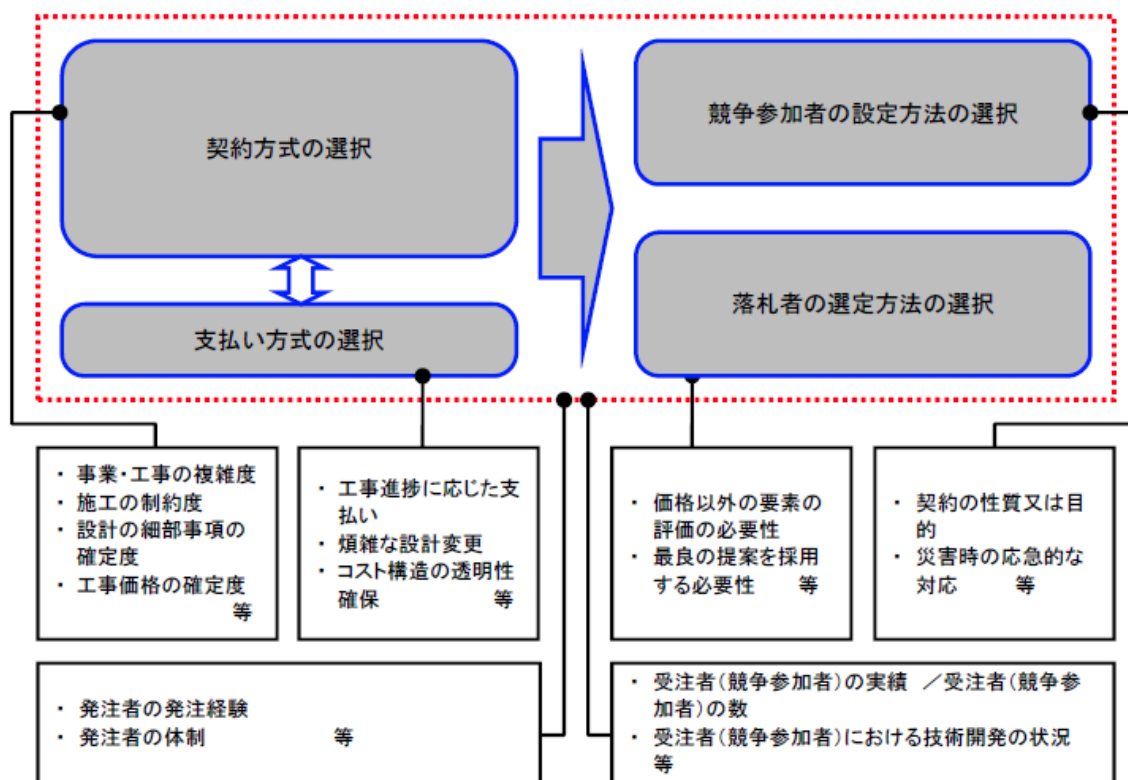
松飛台小学校周辺

160223第3回松戸市公共施設再編整備推進審議会



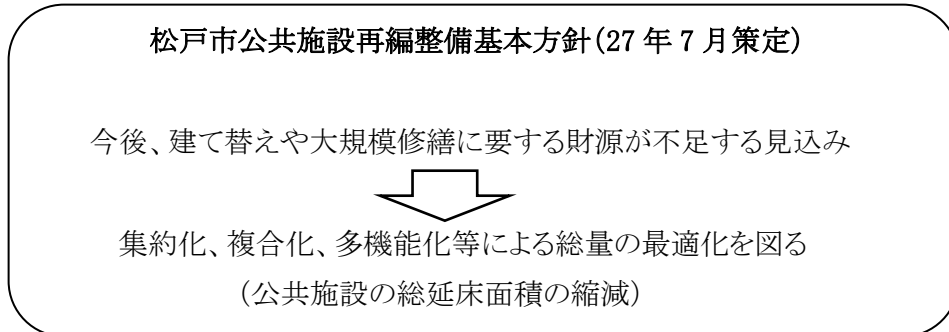
2016年	工程	市	大学
2月	活用基本方針案		
3月			
4月	審議会①	サウンディング調査 施設再編案に係る 庁内調整	与件整理
5月			施設再編案 基本計画案
6月	審議会② 議会)活用基本方針の承認		
7月		事業手法・発注方式の検討	
8月	審議会③		
9月	事業手法・発注方式の決定	展示会運営(3回)	

発注方式の選択において考慮すべき事項



東松戸まちづくり用地（紙敷旧65街区）活用基本方針

1 市内の公共施設の現状

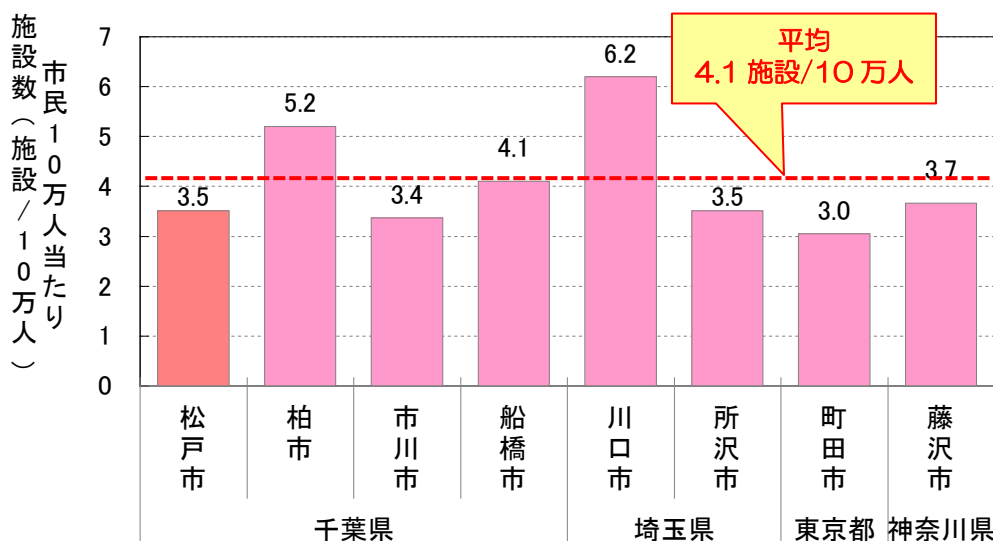


○一方で、特定の目的ではなく、様々な用途に利用できる市民のコミュニティに寄与する施設が、他市に比べて、少ない。

⇒これらコミュニティ機能施設については、この総延床面積の縮減目標にとらわれず、維持していく必要があります。

○また、「既存施設の有効活用など様々な検討を加えたうえで、新たな政策課題や地区別の人口動態等から 必要と認められる場合には新規の建物の整備も行う」ことが、公共施設再編整備基本方針の一つとなっております。

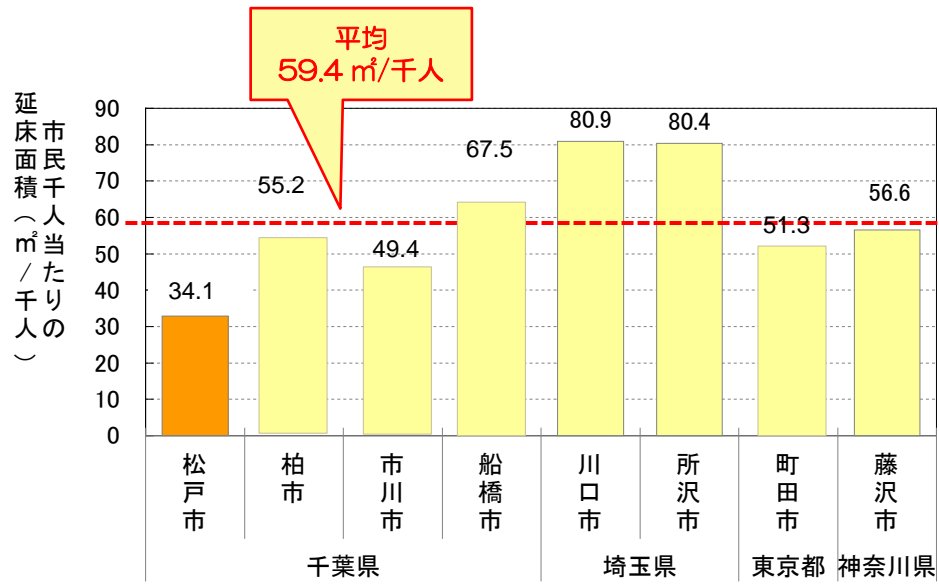
類似都市比較(市民センター(公民館)市民10万人当たりの施設数)



出所「松戸市公共施設白書」

※人口は平成22年度国勢調査人口をもとに計算。

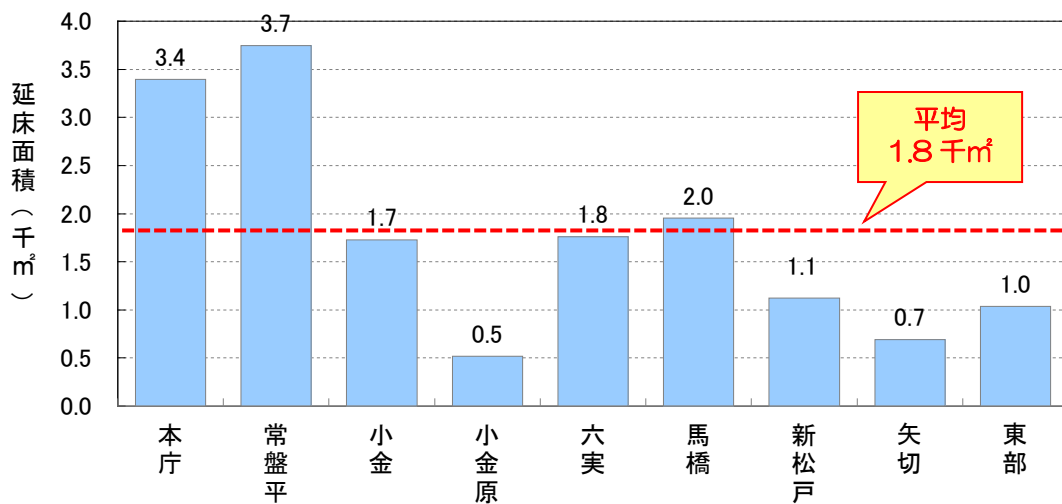
類似都市比較(市民センター(公民館)市民千人当たりの延床面積)



出所「松戸市公共施設白書」

※人口は平成22年度国勢調査人口をもとに計算。

地区別の市民センターの延床面積



出所「松戸市公共施設白書」

2 東部地区の今後の見通し

- 市の東部地区については、これまで発展してきた地域が2つあります。
- 一つは、現在の東部支所や東部クリーンセンター、東部消防署などが集中して設置されております地域、もう一つはUR(都市再生機構)による梨香台団地を中心とする地域です。
- 一方、北総線と武蔵野線が交差するターミナル駅であります東松戸駅周辺地域は、東部地区における新たな拠点として、現在発展しております。
- 平成 27 年7月公共施設再編整備基本方針策定時に活用した人口推計によりますと、東部地区は、平成 62 年(2050 年)には現在の2倍以上の人口である 72,732 人になる見込みです。



地区別市民1人当たりの公共施設の延べ床面積が一番少ない面積となり、他 地区と同様の規模となるまでには(市全体の施設面積 30%減を見込んだうえで)延床面積で3~5万㎡の増が可能といった結果になります。

更には、総合戦略および人口ビジョンに伴い、人口維持から増加に向けて取り組むことで、東部地区は以前の推計以上に人口が増加する可能性が高いと思われ、人口増加に伴い想定し得る行政課題への対応が必要となります。

地区別・年齢層別人口の推移

	人口			年少人口(0~14歳)			生産年齢人口(15~64歳)			老年人口(65歳以上)		
	平成22年	平成42年	平成62年	平成22年	平成42年	平成62年	平成22年	平成42年	平成62年	平成22年	平成42年	平成62年
本庁地区	135,624	136,450	116,045	17,173	13,330	10,430	91,865	85,024	62,584	26,586	38,096	43,031
	-	0.6	▲14.4	-	▲22.4	▲39.3	-	▲7.4	▲31.9	-	43.3	61.9
常盤平地区	91,291	77,230	53,652	11,167	6,356	3,686	57,870	41,365	23,026	22,254	29,509	26,940
	-	▲15.4	▲41.2	-	▲43.1	▲67.0	-	▲28.5	▲60.2	-	32.6	21.1
小金地区	40,945	38,931	30,452	5,222	3,408	2,324	27,182	22,700	14,745	8,541	12,823	13,383
	-	▲4.9	▲25.6	-	▲34.7	▲55.5	-	▲16.5	▲45.8	-	50.1	56.7
小金原地区	28,344	19,652	11,158	3,412	1,515	724	17,031	10,106	4,424	7,901	8,031	6,010
	-	▲30.7	▲60.6	-	▲55.6	▲78.8	-	▲40.7	▲74.0	-	1.6	▲23.9
六実地区	29,342	23,059	14,571	4,051	1,982	1,011	19,542	12,277	6,259	5,749	8,800	7,301
	-	▲21.4	▲50.3	-	▲51.1	▲75.0	-	▲37.2	▲68.0	-	53.1	27.0
馬橋地区	39,837	36,622	27,568	5,116	3,276	2,151	26,663	21,945	13,597	8,058	11,401	11,820
	-	▲8.1	▲30.8	-	▲36.0	▲58.0	-	▲17.7	▲49.0	-	41.5	46.7
新松戸地区	59,487	46,663	29,485	6,408	3,225	1,492	41,185	24,963	11,596	11,894	18,475	16,397
	-	▲21.6	▲50.4	-	▲49.7	▲76.7	-	▲39.4	▲71.8	-	55.3	37.9
矢切地区	25,891	22,153	15,754	3,086	1,886	1,212	16,808	12,847	7,739	5,997	7,420	6,803
	-	▲14.4	▲39.2	-	▲38.9	▲60.7	-	▲23.6	▲54.0	-	23.7	13.4
東部地区	33,696	52,605	72,732	5,124	7,060	9,444	21,860	33,292	41,275	6,712	12,253	22,013
	-	56.1	115.8	-	37.8	84.3	-	52.3	88.8	-	82.6	228.0
松戸市	484,457	453,365	371,417	60,759	42,038	32,474	320,006	264,519	185,245	103,692	146,808	153,698
	-	▲6.4	▲23.3	-	▲30.8	▲46.6	-	▲17.3	▲42.1	-	41.6	48.2

※各地区・各年、上段：人口(人)、下段：平成22年を基準とした増減率(%)

出所「松戸市公共施設再編整備基本方針」

3 東部地区（特に東松戸駅前）の行政課題

今後は東部地区、特に東松戸駅周辺地域における行政課題として、以下の4点が想定されます。

○松戸市図書館整備計画への対応

⇒ 図書館東部分館の移設と地域館への規模拡大

○東部支所の移転（人口増による狭隘解消と交通アクセスの向上への対応）

⇒ 若者の車離れへの対応、高齢者など車を利用しない住民への対応

⇒ 新京成バス梨香台線の増便への追い風となり得る

○新住民の増加に対応し地域コミュニティ創生に寄与する施設

⇒ フリースペース、会議室

○隣接地での高層マンション新築等による流入人口の増加に伴う保育需要増への対応

⇒ 小規模保育施設

（フルスペック保育施設は地域に充足、乳幼児向け施設は東松戸と梨香台）

4 東松戸まちづくり用地（紙敷旧65街区）の活用について

～ 4つの機能を充足する施設整備

これらの行政課題に対応するため、東松戸駅に近く、東松戸駅周辺地域の中心地であります紙敷旧65街区において、以下の4つの機能を充足する公共施設の整備が必要であると考えます。

（1）図書館（地域館。規模の目安：面積約1,000㎡、蔵書5万冊以上）

○東松戸地区における図書分館の機能拡充が急務となっている。

⇒近年人口が増加傾向にある東松戸地区における図書館利用の需要増加に対応する必要がある

参考：東部分館貸出総数の推移

H24年度 106,211冊 / H25年度 112,131冊 / H26年度 116,425冊

○「松戸市図書館整備計画」

これまでの分館機能に加え、課題解決支援・地域交流機能も備えた「地域館」を公共交通機関の利便性を考慮して配置するとされおり、武蔵野線・北総線のターミナル駅である東松戸駅近接の紙敷旧65街区での建設は、この計画に適合する

○広域からの集客が期待でき、街の活性化にも寄与する

⇒交通の便が良く、蔵書が5万冊を超えるレベルの図書館が整備されれば、北総線により鎌ヶ谷市、武蔵野線により市川市在住の方からの利用が見込まれる。

(2) 東部支所

- 現在の東部支所は、交通アクセスの点で不便な場所
⇒ 今後は、若者の車離れや高齢者など車を利用しない住民への対応の必要性が高まってくる
- 周辺人口の増加が見込まれる中、現在でも支所スペースが手狭となってきた
- 支所移転により、東部地区住民にとって東松戸駅には北総線・武蔵野線のほか、バス発着所、タクシー乗り場があり、車を利用できない住民の利便性が向上

(3) 集会施設

- かねてから、地域住民より要望がある
- 幅広いニーズに対応できるフリースペースや、ミーティングスペースといった、地域住民間のコミュニティに寄与する施設機能を新設

(4) 小規模保育施設

- 隣接地で新設される高層マンション入居者などによる、保育施設に対する今後の需要が見込まれる。⇒ 子ども部より、小規模保育施設の要望

5 今後の進め方

この4つの機能の施設整備を基本線とし、

公共施設再編整備推進審議会委員の専門家の方々のアドバイスや周辺地域の方々のタウンミーティングによる市民参画の手法を取りつつ、民間活力の導入を検討してまいります。